

| | | | | | | | | | | | |
|---|--|-----|----|----------|---|----|-----------------|-----|----|----|---|
| 2022年度 日本工学院八王子専門学校 | | | | | | | | | | | |
| 自動車整備科 | | | | | | | | | | | |
| 電子制御実習基礎 | | | | | | | | | | | |
| 対象 | 1年次 | 開講期 | 通年 | 区分 | 必 | 種別 | 実習+ 実技 | 時間数 | 56 | 単位 | 1 |
| 担当教員 | 西野佑吾、和田浩、清水拓也、村木亮治、非常勤講師 | | | 実務 経験 | 有 | 職種 | 一級自動車整備士、自動車整備士 | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | | |
| 自動車の電子制御技術の基礎を実習を通して学ぶ。 | | | | | | | | | | | |
| 到達目標 | | | | | | | | | | | |
| 電子制御技術の基礎知識、構造、機能、作動原理、各制御方法を理解することでこれから自動車整備士として必要とされる知識を補い1つ1つの重要性を理解することが出来るようになること、計測機器を使用しリアルタイムに変化する各装置の作動状況をイメージ出来るようになることと、実車両に置き換えて考えることが出来るようになることを目標とする。 | | | | | | | | | | | |
| 授業方法 | | | | | | | | | | | |
| 自動車に搭載されている電子機器のつながりを意識しながら基礎知識、構造、機能、作動原理、各制御方法を理解できるように授業を進める。項目ごとに確認を行い、短期的な目標設定を設けることにより学生が項目ごとに理解度をしっかりと認識する。予習、復習をしっかりと行い、この授業に参加する学生が実作業に活用出来るようになることを目指す。 | | | | | | | | | | | |
| 成績評価方法 | | | | | | | | | | | |
| 試験を総合的に評価（100%） | | | | | | | | | | | |
| 履修上の注意 | | | | | | | | | | | |
| 学生間・教員と学生のコミュニケーションを重視する。授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。教員の指示に従い、勝手な作業を行わないこと。不明な点は教員に確認し、理解を深める努力をすること。また出席確認時に遅刻の場合4時間の欠席となる。 | | | | | | | | | | | |
| 教科書教材 | | | | | | | | | | | |
| 適時レジュメ・資料を配布する。参考書・参考資料などは、授業中に指示する。ビュービルダー | | | | | | | | | | | |
| 回数 | 授業計画 | | | | | | | | | | |
| 第1回 | PCの使い方①：PCとは何か、基本操作を理解し、一人で扱うことが出来るようになる | | | | | | | | | | |
| 第2回 | PCの使い方②：マイクロソフトword、excel、powerpointを使うことが出来るようになる | | | | | | | | | | |
| 第3回 | 計測制御プログラマーの使い方：コンピュータ内での流れと使用方法を学び一人で扱うことが出来るようになる | | | | | | | | | | |

2022年度 日本工学院八王子専門学校

自動車整備科

電子制御実習基礎

| | |
|-----|--|
| 第4回 | 計測制御プログラマーの基礎制御①：ブザー、LED制御が出来るようになる |
| 第5回 | 計測制御プログラマーの基礎制御②：リレー、モーター制御が出来るようになる |
| 第6回 | 計測制御プログラマーの応用制御①：ブザー、LED、リレー、モーターの複数を段階的に制御することが出来るようになる |
| 第7回 | 計測制御プログラマーの応用制御②：ブザー、LED、リレー、モーターの複数を同時に制御することが出来るようになる |
| 第8回 | 計測制御プログラマーの応用制御③：センサ、ECU、アクチュエータの概念を理解しプログラム作成が出来るようになる |